

## 6. むすび

地震調査研究推進本部（以下「地震本部」という。）では、平成17年8月に策定した「今後の重点的調査観測について（一活断層で発生する地震及び海溝型地震を対象とした重点的調査観測、活断層の今後の基盤的調査観測の進め方）」に基づき、活断層帯の重点的な調査観測を推進している。さらに、地震本部では、平成21年4月に策定し、平成25年3月に改訂した「新たな活断層調査について」において、必要とされる活断層調査に関する基本方針や実施方法等についてとりまとめるとともに、重点的調査観測の対象候補となる活断層帯を明記している。この選定基準に該当する森本・富樫断層帯（以下「本断層帯」という。）の重点的な調査観測（以下「本調査観測」という。）を令和4年6月から7年3月までの2年10ヶ月間の計画で実施した。

本調査観測では、本断層帯の長期評価や強震動評価の課題を踏まえ、本断層帯における地震規模及び長期的な発生時期の予測精度の高度化、周辺の断層帯との関係、断層帯周辺における地殻活動の現状把握の高度化、強震動の予測精度の高度化等を目指している。このため、本調査観測では、1) 活断層の詳細位置・形状・活動性及び周辺の地下構造解明のための調査として、1. 1) 活断層の詳細位置・形状・活動性解明のための調査、と、1. 2) 重力探査に基づく地下構造調査、2) 断層帯周辺の地殻活動の現状把握調査、3) 浅部・深部統合地盤構造モデルの構築と強震動予測として、3. 1) 浅部地盤構造モデルの構築、3. 2) 深部地盤構造モデルの構築と強震動予測、の5つのサブテーマ研究グループを構築して、調査観測を進めるとともに、関係自治体等と調査観測での連携を図るとともに、調査観測成果を地域へ普及・還元する観点から、4) 地域連携・地域の内在地震ハザード情報共有、のサブテーマを設定した。

最終年度にあたる令和6年度は、各研究サブテーマにおける個別の調査観測を実施し、成果を取りまとめるとともに、各サブテーマの調査観測成果を集約し、プロジェクト全体で議論することで、本断層帯の震源断層モデルや浅部・深部統合地盤構造モデルを構築し、本断層帯が活動した場合の強震動の試算を実施した。これらの成果を本断層帯の長期評価と強震動評価の高度化に資するべく、令和4～6年度成果報告書としてとりまとめた。

最後になりましたが、3年間にわたる本調査観測を行うにあたり、調査対象地域である石川県や富山県等の関連機関の皆様には、調査観測の実施、資料収集、地域勉強会の開催等に関してご協力いただきました。また、各種の現地調査では地権者の皆様にも便宜を図っていただきました。ここに記して深謝申し上げますとともに、引き続き、地震調査研究へのご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、外部評価委員の先生方には、ご多用のところ、全体会議や外部評価委員会、現地視察等にご参加頂き、本調査観測を推進するため、様々な専門的知見からの助言を頂戴いたしました。謹んで御礼申し上げます。

本調査観測の期間中には、能登半島北東部で継続する活発な地震活動による被害地震が相次ぎ、マグニチュード7.6の令和6年能登半島地震では、本調査観測の対象地域でもある、石川県や富山県の各地で、建物被害や地盤災害等が発生いたしました。被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地域の復興と地域住民の皆様には平穏な生活が一刻も早く戻ることを心から願っております。